

学術研究実績報告書

申請書との変更点およびその理由(内容、日程、実施場所、参加者等で変更があれば記入)

筑波大学 津田和彦 教授にデータ分析とモデル化について助言を得た。また、デバッグ工学研究所 松尾谷 徹 代表にチームビルディングモデルと統計分析について助言を得た。
インタビュー調査で謝金が発生したのは1名のみだった。

研究実績概要

研究代表者(申請者氏名・所属機関・職名):

森本千佳子(東京工業大学 情報理工学院 特任准教授)

共同研究者(氏名・所属機関・職名):

増田礼子(フェリカネットワークス株式会社 企画職)

研究課題名:IT プロジェクトにおけるコミュニケーションスキルの構造化とプロジェクト状態に関する研究

研究期間: 2015 年 4 月 1 日 ~ 2016 年 6 月 30 日

概要:(1,000 字以内で記述)

本研究では、IT 分野を対象として、プロジェクト内外のコミュニケーションが複雑化している現在のプロジェクトにおいて、コミュニケーションスキルの構造化を試みたものである。まず、IT 分野の学生を対象としたアンケート調査により、IT 学生と非 IT 学生のコミュニケーションスキルの違いを明らかにし、コミュニケーションスキルがプロジェクト型の教育を通じてコミュニケーション構造のどこに効果があったかを明らかにした[1]。次に、企業プロジェクトにおけるチーム関係の変化とコミュニケーションの変化をインタビューおよびアンケート調査により分析し、チームの成長モデルを分析・評価した。続いて収集したコミュニケーションデータを元に、経済活動指標として用いられるジニ係数をチームコミュニケーション状態の比較指標として利用したチーム貢献係数を提案し、複数のチームに当てはめて評価した。評価の結果、チームのアウトプットをチーム貢献係数で評価することでチーム状態の変化を把握しやすいことが分かり、チーム貢献係数に一定の効果があることが確認できた[2][3][4][5]。

[1] 森本千佳子, PBL 教育を通じたコミュニケーション・スキルの向上に関する考察, 経営情報学会 2015 年秋季全国研究発表大会, 2015

[2] Chikako Morimoto: Improvement of IT Students' Communication Skills using Project Based Learning, Proceedings of the 8th International Conference on Computer Supported Education (CSEDU2016), pp. 147-152, SCITEPRESS, DOI: 10.5220/0005891501470152, 2016

[3] Ayako Masuda, Chikako Morimoto, Tohru Matsuodani, Kazuhiko Tsuda: A Case Study of Team Learning Measurements from Groupware Utilization - A Proposal of Measurement Method for the Contribution Ratio of Knowledge, Proceedings of the 8th International Conference on Computer Supported Education (CSEDU2016), pp. 193-198, SCITEPRESS, DOI: 10.5220/0005910101930198, 2016

[4] 森本千佳子, 松尾谷徹: PBL におけるチーム比較を簡便化するための試行的取り組み, ソフトウェア・シンポジウム 2016, ソフトウェア技術者協会, pp. 128-135, http://sea.jp/ss2016/download/4-7_SS2016.pdf, 2016

[5] 増田礼子, 森本千佳子, 松尾谷徹, 津田和彦: チームの協働状態を測る: Team Contribution Ratio ~手間のかかる質問紙からの脱却, ソフトウェア・シンポジウム 2016, ソフトウェア技術者協会, http://sea.jp/ss2016/download/4-6_SS2016.pdf, pp. 121-127, 2016

* 研究実績概要は「野村マネジメント・スクール研究助成実績報告書」および財団ホームページに掲載します